

H22年度 看護部 研修一覽

I. 看護実践能力

I-1 看護技術

1-i 共通技術

レベル	研修名	研修目標案	開催予定月
I	移動移送時の介助	<ul style="list-style-type: none"> ・ トランスファーに関する基礎知識を説明でき、日常の看護に活用することができる。 ・ ボディメカニクスを活用した安楽な患者移送方法を説明でき、実践できる。 ・ 患者の移送・移動介助のポイントを説明でき、安全な移送・移動介助が実践できる。 	4月
I	輸液管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 輸液（主に末梢静脈からの）に関する基礎知識を理解でき、説明できる。 ・ 輸液（主に末梢静脈からの）を患者に施行する一連の流れを、手順に沿って実施できる。 	4月
I	採血・検体の取り扱いとインサイト挿入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 採血の一連の手順が理解できる。 ・ 適切な血管の選択・穿刺部位が決定できる。 ・ 採血の実施方法と採血後のケアが理解できる。（感染・医療安全対策ができる） ・ 検体スピッツの取り扱いが理解できる。 ・ インサイト挿入の手順が理解できる。 	5月
I	フィジカルアセスメント入門編	<ul style="list-style-type: none"> ・ フィジカルアセスメントの目的を説明することができる。 ・ フィジカルイグザムを用いて、正しい手技で患者から情報収集ができる。 ・ 収集した情報の内容から患者の状態をアセスメントし、ケアについて考えることができる。 	5月
I	輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 輸液ポンプとシリンジポンプの使用目的が分かる。 ・ 輸液ポンプとシリンジポンプの仕組みが分かる。 ・ 取り扱いの留意点が理解でき、輸液ポンプとシリンジポンプが使用できる。 	6月
I	急変時の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 急変時の観察のポイントが理解できる。 ・ 上記をふまえ、自己の役割を意識した急変時の対応を実践できる。 ・ 心配蘇生法が実践できる。 	7月
I	褥瘡予防 I	<ul style="list-style-type: none"> ・ 褥瘡の発生原因が理解できる。 ・ 日常生活自立度、ブレーデンスケール用紙の記入が 	10月

		<p>できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 除圧の実践ができる。 <ul style="list-style-type: none"> ① 背抜きの方法が分かり実践できる。 ② アドバン使用時の注意点が分かる。 ③ 体圧測定ができる。 	
I	看取りの看護	<ul style="list-style-type: none"> 看取りの過程について知識を得ることができる。 受け入れの段階について知識を得ることができる。 看取りについて考え、自分の意見を述べるができる。 他者との意見交換を通し、様々な死生観があることを実感できる。 	11月
III	看護過程	<ul style="list-style-type: none"> 情報の解釈・アセスメントができる。 アセスメント内容を統合し看護問題抽出が行える。 関連因子を具体的に述べながら看護問題を述べることができる。 自部署の患者事例について看護過程を使用した看護展開を体験することができる。 看護過程というツールを利用した看護展開を日常業務に取り入れるための提案ができる。 	全6回 2月 ～8月

1 - ii 各科専門技術

レベル	研修名	研修目標案	開催予定月
II	呼吸理学療法 (初級編)	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸器の解剖について説明する事ができる。 呼吸理学療法の概念について理解することができる。 呼吸理学療法の基礎的な技術を習得する事ができる。 	6月 ～10月
III	呼吸理学療法 (中・上級編)	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸理学療法の概念について理解することができる。 呼吸理学療法の基礎的な技術を習得した上で、専門的技術を習得する事ができる。 各部署で、呼吸に問題のある患者に対する看護ケアの問題点を考え、その解決策を上げることができる。 	6月 ～10月

II. 対人関係及び個人マネージメント能力

II - 1 対人関係及び個人マネジメント

レベル	研修名	研修目標案	開催予定月
-----	-----	-------	-------

I	新人サポート 参加資格：今年度入職者のみ	<ul style="list-style-type: none"> 新人看護師（新人看護職員）が感情を調整し、職場環境に適応できる。 新人看護師（新人看護職員）が困っていることや不安な状況を言語化できる。 自らの状況を話せる仲間を作ることにより、安心感を得る。 	4月 5月
II	看護におけるかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 看護におけるかかわりの全体像が理解できる。 看護におけるかかわりについて、自分自身の特徴に気づくことができる。 	1月
II	業務リーダー研修	<ul style="list-style-type: none"> リーダーシップについて説明できる。 メンバーシップについて説明できる。 チームナーシングにおける業務リーダーの役割が説明できる。 	2月
II	業務リーダーサポート研修 参加資格：前回業務リーダー研修受講者	<ul style="list-style-type: none"> 業務リーダーを行う上での自己の課題について見出し、解決策を提示することができる。 自己の課題を克服し、業務リーダーを行うことができる。 	9月

Ⅲ. 組織マネジメント能力

Ⅲ-1 安全管理

レベル	研修名	研修目標案	開催予定月
I	感染管理Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> 「感染は恐くない？」適切な手洗い、防護具の着脱ができる。 	4月
I	感染管理Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> 感染の成立を理解し防止策を理解できる。 適切な手洗い、防護具の着脱ができる。 	7月

Ⅲ-2 看護管理

レベル	研修名	研修目標	開催予定月
II	看護管理 (初級コース)	<ul style="list-style-type: none"> 管理に関する知識の供給をすることによって、日々の業務の意味を知ることで業務に対する思考が整理される。 	10月
III	看護管理 (中級コース)	<ul style="list-style-type: none"> 看護管理において、起こっている現象を正しく情報収集し、判断でき、対象に正しく伝え、それを価値ある方向に動かしていく行動が出来るようになる。 	12月
IV	看護管理 (上級コース)	<ul style="list-style-type: none"> 看護サービス管理のプロセスを理解する。 研修で得た知識・技術を活用して各自に期待されている役割を認識し役割行動がとれる。 	1月

Ⅲ、Ⅳ	看護管理 (外来コース)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 組織の一員として自分の使命や役割を理解し行動できる。 ・ 自部署だけでなく組織全体を見ることができアサーティブな自己表現ができる。 ・ 看護専門職として自覚を持ちWLBを考えたキャリアプランが描ける。 ・ 看護サービス管理のプロセスを理解する。 ・ メンバーや組織を動かすためのリーダーシップやコミュニケーションスキルについて学び活用できる。 <p>自らの日常業務実践が看護にどのように結びついて いるか理解でき、専門色としての看護師の自信回復 に繋がる</p>	9月 11月
-----	-----------------	---	-----------

Ⅲ-3 その他

レベル	研修名	研修目標案	開催予定月
I	新人ローテーション研修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 配属部署で体験しにくい生活援助技術、治療・検査の介助を体験し、看護実践能力の向上を図る。 ・ 関連する部署での業務を知ることにより、自部署での看護実践に活かす。 	10月 ～1月
全て	成果発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度、部署で取り組んだ活動の成果 / 個人として取り組んだ活動の成果 / リソース・委員会・部局などの成果を看護部全体で共有する。 	3月

Ⅳ. 教育関連能力

Ⅳ-1 教育指導

レベル	研修名	研修目標	開催予定月
Ⅲ	H23 年度教育担当者育成コース	<p>新人の特性と教授法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新人の特質と個人差について理解し、説明できる。 ・ 対象に応じた教授法の必要性を理解し、説明できる。 ・ 動機づけ理論を理解し、指導計画に活用することができる。 	1月 ～4月

		<p>援助者の援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対人援助職としての専門性を理解できる。 ・ 看護場面（患者・家族・看護職者同士）におけるコミュニケーションスキルの理解ができる。 ・ 実例をもとに自己のコミュニケーションスキルの確認ができる。 ・ 教育担当者として攻撃的でなく肯定的な教授方法が実践できる。 	
Ⅲ	<p>教育担当者フォローアップ</p> <p>参加資格：前回の教育担当者研修参加者</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育担当者として対象者を多面的に理解することができる。 ・ 相手の状況にあわせた、教授法が説明できる。 ・ 教育担当者として、教育を行う中で困っていることや不安な状況を言語化できる。 ・ 新人看護師の今後の指導方法が理解できる。 	6月 12月

V. トピックス研修

レベル	研修名	研修目標案	開催予定月
全て	糖尿病療養関係のUp to Date	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己注射薬剤の特徴と使うタイミングが理解できる。 ・ 病型による治療の違いが理解できる。 ・ コンプライアンスとアドヒアランスが理解できる。 	11月
全て	いまさら聞けない女性のからだ～子宮頸がんは検診とワクチンで予防可能な時代へ～	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子宮頸癌・HPV ワクチンについて理解できる。 ・ 検診受診の必要性がわかる。 	8月
I～II	暴力への対応「こんなときどうしますか？」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 暴力についての知識を深める。 ・ 院内暴力に対して個々の看護師が適切な対処・対応ができるよう演習、実技を通し学ぶことで実践に繋がっていくことができる。 	2月 3月
全て	院外研修・学会発表報告会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 院外研修で学んできた内容・学会で発表した内容を発表者と共有できる。 	前期 後期